

慈雲

47号

2017/11

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@hotmail.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



世尊復有
何等因縁
与提婆達多
共爲眷属

と共に眷属たる。

世尊なまた何等にの因縁ましましてか、

提婆達多だいばだつた

けんぞく

【『観経』の言葉】

前回は、韋提希夫人がお釈迦さまを前に号泣して「なぜ私はあのような悪子アジャセを生んだのでしようか」と愚痴を言い、そのわけを尋ねたのです。今月は、さらに続いてお釈迦さまに「私は凡夫で障りもありませんから、悪子を生んだことは甘んじて受けます。しかしお釈迦さまは悟りを開かれた方ですから、煩惱も絶たれているはずです。それなのにあの悪人の提婆達多と姻戚関係にある事は、どういうことですか」と詰め寄るのです。

韋提希夫人はまず我が子アジャセを恨むのですがそのアジャセをそののかした提婆達多を恨み、さらにその恨みがお釈迦さまにまで及ぶのです。

今月は

おくねん みだ ぶほんがんに
 憶念弥陀仏本願

じねん そくじにゆうひつじよう
 自然即時入必定

ゆいのうじようしようによらいごう
 唯能常称如来号

おうほうだいひぐぜいおん
 応報大悲弘誓恩

の四句を学びます。

「弥陀仏の本願を憶念すれば、自然に即そくの時必定ひつじように入る。ただよく、常に如来の号みなを称して、大悲弘誓の恩を報ずべしといえり。」と読みます。前回に続き龍樹菩薩のお徳を讃えたところですが、まず一句目ですが、阿弥陀仏の本願を憶念すれば、とあります。憶念とは憶おもう・念ずるということです。私たちが阿弥陀さまの本願をいつまでもおぼえていて忘れないという意味です。しかし私が阿弥陀さまを憶う以前に阿弥陀さまの方が私たちを憶念してくださっているという事に気づくとよりいっそう心に温かいものを感じ

ます。かつてある先生が「念仏は仏念だ」とおっしゃっていました。私が唱える念仏に先立って仏さまが私を念じてくださっているのだ、という事を力強く語っておられた姿を思い出します。

次に二句目です。自然に直ちに必定に入ることができるという意味です。自然は「じねん」と読み、親鸞聖人は「おのずから」とか「しからしむ」事だと述べておられます。私たちが善よいとか悪いとか思いつらうことに関わらず、仏さまの憶念に気づけば、その時におのずから必定に入るといいます。必定とは必ず定まる位ゐ位ゐとい、浄土に生まれる人々の仲間に入ることが定まるということです。即の時ときというのは、間髪を入れずということとです。つまり仏さまの憶念という事が受け取れた時におのずから直ちにその人は浄土に生まれる仲間に入ることになります。

三句目と四句目は私たちが出来ること、為すべきことが述べられています。それは、ただよく常に如来の名号である南無阿弥陀仏を称して、大悲の弘誓の恩に報

いることであるといわれています。私たちのできることはこの二行のことだけです。

特に四句目の「恩に報うべし」といわれているように仏さまの恩に報いることが私たちのできる唯一のことです。恩に報うことが実は大事なことであり、まことに恩に報うことはなかなかできないことです。善導大師は「自信教人信じしんきようにんしん（中略）真成報仏恩しんじようほうぶつじん」（みずから信じ人を教えて信ぜしむ、真に仏恩を報ずるに成る）と言われています。私たちはどこまでもみずからが聞法して信じていることが大切であります。それができたならば周りの者もおのずから信心を得ることができるのであり、それこそがまことに仏さまのご恩に報いることであるという意味です。私は信心を得たから次は人に教えようというのではなく、どこまでも「この私ひとり」を明らかにするために聞法していくより道はありません。そのように徹するとき、我知らず周りにも影響を与えているということです。

【瑞蓮寺 同朋の会 大人の遠足】

十月七日（土）に瑞蓮寺同朋の会で石清水八幡宮へ行って来ましたので、その時の写真を掲載します。



松花堂の庭園を拝見しました。



吉兆でお昼ご飯を頂きました。



ケーブルカーで八幡宮へ



石清水八幡宮にて

【報恩講のお知らせ】

十一月十二日（日）

報恩講を勤修します

引き続き帰敬式ききようしきを執行します

二時 お勤め

三時 帰敬式

内にて法話

住職

四時 お斎

【お磨きのお知らせ】

報恩講に先立ち、仏具のお磨きをします。皆様ふるって御参加下さい。

十一月七日（火）午前九時より

【瑞蓮寺 同朋の会】

同朋の会を開催いたします。

十一月二十八日（火）

「東本願寺で報恩講に参拝する」

御本山の報恩講に参拝します。

今回は平日ですが、坂東節のお勤めに参拝します。

集合時間 午前八時

集合場所 瑞蓮寺

又は

集合時間 午前九時

集合場所 東本願寺 御影堂門前

参加、ご希望の方は瑞蓮寺まで。

申込み〆切十一月五日（日）

・十二月九日（土） 午後二時より

「瑞蓮寺にて写真コンテスト」

「写真コンテスト」に応募された作品の展示及び表彰を行います。

時間 午後二時

場所 瑞蓮寺

「写真コンテスト」の応募はまだまだ受け付けております。テーマは「あなたのしあわせ、わたしのしあわせ」です。ちよつとしたたわいの無い事、くすつと笑ってしまうような事、皆さんのしあわせは何ですか。ご自身なりの幸せをご応募下さい。応募方法は瑞蓮寺まで。

瑞蓮寺同朋の会では、来年の行事内容を募集しております。こんな事、あんな事を欲しい、教えて欲しい、何でも、ご希望があればお伝え下さい。ちよつとした思いつきで構いません。来年の行事として企画して行きたいと思えます。

【編集後記】

編集後記を書いている時点では、台風のニュースが頻繁に流れています。大型で強い台風だそうで、何処にも不幸な出来事が無ければ良いと願うばかりです。

慈雲の0号を発行させて頂いたのが二〇〇五年九月でしたので、十二年が過ぎました。十二年、干支が一回りしたこととなります。その間に色々な行事や出来事があり、私個人の生活もかなり変わりましたが、自分自身で驚いているのは自分の内面が大きく変わった事です。

歳を取っただけと言われるかも知れませんが、私自身は瑞蓮寺と出会い、そこに集う同朋と出会い、仏教と出会った結果だと思っています。昔はお寺の敷居は高かったのですが、今は自分の実家のような気がしています。

御住職、坊守、慈雲会役員は、共に皆さんが来やすい（気安い）場を作って行きたいと思っています。どうぞ、お寺に足をお運び下さい。

長塩浩史

<http://www.zuirenji.net/>

zuirenji@hotmail.com